

2 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

【臨床検査技師養成科】

臨床検査技師養成科は、臨床検査技師として必要な知識、技術を教授するとともに、建学の精神「叡智と実践」に沿い、豊かな教養と優れた人格を備えた有能な人材を育成するために、以下のカリキュラムを設定する。①1年次は、将来の臨床検査技師としての自覚を認識させるために、人間の生命の尊さ、医療における臨床検査の意義及び臨床検査技師の役割、専門分野科目に必要な基礎分野科目を学ぶ。また、高度情報化に対応できるよう、情報科学領域の理解に注力する。②2年次は、専門分野科目を深く学ぶと同時に、実習を通して患者さまの痛みを理解するとともに、講義の内容を理解する。③3年次は、臨地実習において、疾患と検査データとの関連性、患者さまとの接し方、検体の取扱い方、他部門との関わり合いを学び、チーム医療の重要性を理解し、医療人・臨床検査技師としての職業意識を自覚させる。

【管理栄養科】

管理栄養科は、豊かな人間性と高い職業倫理観を備え、管理栄養士として十分な知識と技術を身に付けた人材を育成するために、以下のカリキュラムを設定する。①1年次は、導入教育を通じて、4年間の学習の基礎的能力とスタディスキルを身に付ける。また、栄養に関わる職業人として倫理観を学び、教養を身に付ける。②2年次は、医学的基礎知識を身に付け、臨床栄養学へと応用できる能力を養う。また、栄養管理や現場での栄養指導に必要な理論と技術を身に付ける。③3年次は、臨床に即した栄養学的能力や、チーム医療を踏まえて他の医療職種と連携できる能力を身に付ける。④4年次は、高度な臨床における能力を養うとともに、個人及び集団に対する栄養についての的確に評価・判定し、それに従って適切な方向付けができる能力を養う。具体的成果を、卒業研究を通じて論文にまとめ、実践に即した総合的能力や技術を身に付けさせる。

【保健看護科】

保健看護科は、生命の尊重と人間の基本的権利を尊重する倫理的感性と、豊かな人間性を備え、看護の対象となる人とその家族、コミュニティの本来持っている力を支え、健康

問題の解決に貢献することができる能力を養い、国際的な幅広い視野を持ち、社会情勢の変化や科学・技術の発展を捉え、社会のニーズに対応できる能力と、地域の保健・医療・福祉の向上を目指し、関連領域の人々と連携・協働する能力を養うために、以下のカリキュラムを設定する。1年次は科学的思考の基盤や、人間と生活・社会の理解、人体の構造と機能など看護学の土台となる知識を身に付ける。看護学では基礎看護学を中心に学び、看護学の基礎的知識・技術を身に付ける。2年次は疾病の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度などを学ぶとともに、母性看護学・小児看護学・成人看護学・老年看護学・精神看護学・在宅看護論などの対象別看護を学び、1年次の基礎看護学を踏まえた対象別の看護に関する基礎的知識・技術を身に付ける。また、成人看護学・老年看護学の臨地実習を通して、対象別看護の基礎的実践力を身に付ける。3年次は、2年次で学んだ成人看護学・小児看護学・母性看護学・精神看護学の臨地実習を通して、対象別看護の基礎的実践力を身に付けるとともに、看護の統合と実践、公衆衛生看護学など、より応用的な看護分野の知識・技術を身に付ける。4年次は、1～3年次に身に付けた基礎看護、及び、対象別看護の基礎的技能を踏まえて在宅看護論・看護の統合と実践・公衆衛生看護学の臨地実習を行い、より応用的な看護実践ができる技能を身に付ける。

【臨床工学専攻科】

臨床工学専攻科は、様々な背景のある学生の資質を活かして、幅広い知識を持ち、技術の進歩とともに高度化する医療に対応できる能力を身に付けさせるために、一年間の教育期間を基礎構築期、応用発展期、臨床実習期の3つに区分し、以下のカリキュラムを設定する。①基礎構築期においては、医療における臨床工学技士の意義を学び、臨床工学技士として働くための医学的及び工学的基礎知識を習得するための専門基礎分野を中心に学ぶ。②応用発展期においては、基礎構築期で身に付けた基礎知識を基に、臨床工学技士の専門知識や専門技術を習得するための専門分野を中心に学ぶ。また基礎から応用への発展の過程を理解し、医療技術や医療機器の発展に対応できる素養を身に付ける。③臨床実習期においては、臨床工学技士の専門知識や専門技術が臨床現場でどのように使われているか臨床実習を通して学ぶ。また、臨床現場で実践されているチーム医療や患者接遇を体験し、職種間での連携や対人コミュニケーション能力の重要性を理解すると共に、医療人としての自覚を促す。